

めぐみイエス・キリスト教会

2021年12月12日(日)第二主日礼拝
週報「通算第587号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌80「あめなる神には」	p. 110
【交読文】	No.14詩篇第37篇	p. 889
【賛美Ⅱ】	新聖歌77「きよしこのよる」	p. 105
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.20「天より来られし」	
【聖書朗読】	ルカの福音書1章26節～38節	
【礼拝説教】	《受胎告知》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「メシア誕生の預言」から

※イザヤ書7章14節「処女が身ごもって」 (旧約p.1178)

7:14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。

※イザヤ書11章1節～2節・10節「エッサイの根」 (新約p.1183)

11:1 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。
11:2 その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である。

11:10 その日になると、エッサイの根はもろもろの民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のとどまるところは栄光に輝く。

●ポイント2. 「イエス」と言う名前は？

※民数記13章16節「カナンの地に遣わした十二人の斥候」(旧約p.260)

13:16 以上が、モーセがその地の偵察のために遣わした者の名である。モーセはヌンの子ホセアをヨシュアと名づけた。

(ホセアは「救い」、ヨシュアは「主は救い」、ギリシヤ語音読みが「イエス」)

※マタイの福音書2章23節「ナザレのイエス」(新約p.3)

2:23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られたことが成就するためであった。

●ポイント3. 「マリアが選ばれた理由」とは？

※ルカ1章5節～7節・13節～17節「ザカリヤとエリサベツ」(新約p.106)

1:5 ユダヤの王ヘロデの時代に、アビヤの組の者でザカリヤという名の祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。

1:6 二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を落度なく行っていた。

1:7 しかし、彼らには子がいなかった。エリサベツが不妊だったからである。また、二人ともすでに年をとっていた。

1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり多くの人もその誕生を喜びます。

1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

◎先週の礼拝メッセージの概要【リバイバルと迫害】

《パウロとバルナバは、ユダヤ人会堂における安息日礼拝に参加しました。その時、会堂管理人が奨励の言葉を勧めたのです。するとパウロは立ち上がって、主イエスの福音を語りました。そのメッセージは、その場にいた人々の心を打ったのです。それが一週間前の出来事でした。

ルカは、次の安息日までの一週間のことについては割愛していますが、二人の宿泊先に、毎日、多くのユダヤ人や改宗者たちがやって来て、主イエスの言葉を聞き、信じて救われ、バプテスマを授かったことは間違いないことです。さて、次の安息日のことです。何と会堂には、ほぼ町中の人々が、主の言葉を聞くために集まって来たのです。その時、主の教えに感動していたユダヤ人たちの態度が、急変したのです。そして、パウロが語るメッセージに対して、反対し口汚くののしったのです。その理由をルカは、「ねたみに燃えて」と、明確に書き記しています。

この時、ユダヤ人の選民意識、また異邦人に対する蔑視感情が明らかにされました。異邦人が救われることを、彼らは良しとしなかったのです。この一週間に、パウロとバルナバは、尋ねて来た彼らに「恵みに留まるよう」、強く勧めました。ここに二つの立場が存在します。

一つは、恵みによって、主イエスの教えを聞き、バプテスマを受けながらも、その恵みを拒み、自分自身から永遠の命にふさわしくない者となったユダヤ人たち。もう一つは、恵みによって、主イエスの信仰に入り、永遠の命にあずかる者となった異邦人たち。その分かれ目は、何だったのでしょうか。それは「恵みに留まる」ことなのです。私たちも、恵みに留まることを忘れてはなりません。その後、ユダヤ人たちは、ねたみと怒りを持って、パウロとバルナバを迫害します。彼らは、神を敬う貴婦人や町の指導者たちを扇動して、二人を町から追い出します。二人は、かつて主イエスが弟子たちに教えられたように、足のチリを払い落として出て行きます。》

◎お知らせ

※第三主日礼拝は、12月19日(日)午前10時から教会で行ないます。

※12月26日(日)は、2021年感謝礼拝を10時30分から行ないます。

※2022年1月2日(日)の礼拝はお休みします。1月9日(日)からです。